

2025年12月期（2025年度） 決算説明会

artience 株式会社

証券コード：4634

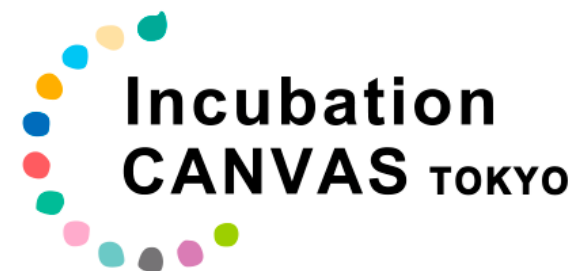
決算説明会 開催日：2026年2月20日

決算説明会資料 公開日：2026年2月19日

新規事業創出に向けたオープンイノベーションの推進

「Incubation CANVAS TOKYO」 (2025年10月30日開業)

マテリアル分野に特化したグローバル共創拠点として、社内外の知を接続し、新たな技術・用途探索を加速。
中長期的な事業機会の創出に向けた基盤を構築。



【概要】

① オープンイノベーション

- ✓ 素材系スタートアップ、アカデミア、事業会社、投資家が参画。
- ✓ 国内外VC・大学等、25以上のパートナーと連携。

② ラーニング & ネットワーク

- ✓ ピッチイベント、研究シーズ紹介を通じ、マテリアル分野に特化した人材育成・交流を推進。

③ 社会実装の加速支援

- ✓ 技術と用途の橋渡しにより、サイエンスの市場実装を目指す。

取り組み事例

マテリアル、ディープテック領域

Institute of SCIENCE TOKYO
Incubation CANVAS TOKYO

Science Tokyo マテリアルイノベーションフォーラム

参加無料

2月25日 水
12:30~17:00

会場 | Incubation CANVAS TOKYO
主催 | 東京科学大学 産学共創機構
共催 | Incubation CANVAS TOKYO

大塚英幸 教授 今岡亨裕 准教授 東 正樹 教授 大塚史康 教授 石川理史 准教授 和田裕之 准教授

マテリアル研究を行う教員
によるピッチセッション

《過去の実績》

PEGASUS TECH VENTURES

米ビジネス誌にて4年連続掲載!

2026年のトップ テクノロジートレンド

アニス・ウツザマンが
日本企業のとるべき対策を徹底解説!

アニス・ウツザマン
ペガスス・テクノロジー・アドバイザー
シリコンバレーベンチャーキャピタルリスト
企業家で100億ドルの成長を遂げ
OpenAI, Anthropic, Google, etc.
シリコンバレーのユニコーン企業へ投資

IJIE DeepTech Reception

2026.2.6 FRI Incubation CANVAS TOKYO
セミナールーム「オンライン収録」
14:00~17:00 (受付開始13:30)

無料オンライン配信 & 現地参加
※Incubation CANVAS TOKYOにて開催

第62回NEDOピッチ
マテリアル特集

技術から事業を生む実践ピッチイベント

新規事業創出、イノベーション、スタートアップ領域

無料セミナー

ネイチャーポジティブと循環型森林経営で切り拓く、
事業と地域共創の新しい道筋
北海道下川町・産総研と共創するネイチャーポジティブの未来

2.26 木
14:00 - 17:00

※放送時間は当日の状況により前後する場合がございます。

《過去の実績》

**未来を共に創る
共創から始まる新規事業の可能性**

2026.2.4 木 13:30-16:30

会場 | Incubation CANVAS TOKYO
NEXCHAIN
定員数・限定80名 参加費・無料

共催企業 | NEXCHAIN Incubation CANVAS TOKYO

Seeds to Market
技術から事業を生む実践ピッチイベント

2025.11.26 木 15:00-17:00 @Incubation CANVAS TOKYO (会場費無料)

イノベーション・コネクトTokyo
- 社外とのつながりが生む価値 -

2026.2.18 WED 15:00-17:00

参加費 無料 (登録料 500円)

開催場所 | Incubation CANVAS TOKYO
共催企業 | Incubation CANVAS TOKYO

共創ピッチセッション
Co-creation Pitch Sessions

11/20 木 16:00 - 18:00 JST

目次

- 2025年度 連結業績・事業セグメント別実績概況
- 2026年度 通期計画と見通し
- 中期経営計画artience2027の進捗

(参考) 連結BS・PL概況
事業別・地域別セグメント実績
主な製品・用途

2025年度
連結業績概況
事業セグメント別実績概況



2025年度 連結業績

(億円)

	24年度実績	25年度実績	増減率(%)
売上高	3,511	3,500	▲0.3
営業利益	204	208	1.7
経常利益	210	209	▲0.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	185	103	▲44.2
営業利益率	5.8%	5.9%	+0.1 (point)
海外売上高比率	55.4%	55.1%	▲0.3 (point)
ROE	7.3%	3.9%	▲3.4 (point)

計画の前提となる指標と実績

		24年度 平均	25年度 平均	26年度 前提
為替	1 USD	¥ 152.2	¥ 149.8	¥150.0
	1 EUR	¥ 164.4	¥ 169.5	¥170.0
	1 RMB	¥ 21.1	¥ 20.9	¥20.0

		24年度 平均	25年度 平均	26年度 前提
原料	ナフサ(/KL)	¥75,400	¥67,125	¥65,000

減損損失の計上

- 北米新政権発足後、特に**EV**の市況が芳しくなく、**CNT分散体**の出荷は低調な見込み。欧州は、出荷は堅調も、当初想定のカパを埋めるまでには市場回復に時間を要する。

対象拠点	対象セグメント 事業	金額	主な要因
米国・ケンタッキー州	色材・機能材 CNT分散体	49.5億円	EV市場拡大の大幅減速による稼働計画の延期
ハンガリー	色材・機能材 CNT分散体	12.6億円	EV市場拡大の大幅減速による稼働率の低下
中国・珠海	ポリマー・塗加工 粘着剤	9.7億円	VOC規制による溶剤型→水性型移行の市場進展遅延、営業損失継続
国内製造所		0.9億円	遊休資産の全額減額
合計		72.7億円	-

2025年度 連結業績サマリー

■ 期初から四半期毎に回復し、営業利益は**過去最高**に。ディスプレイ用粘着剤が業績を牽引。

売上

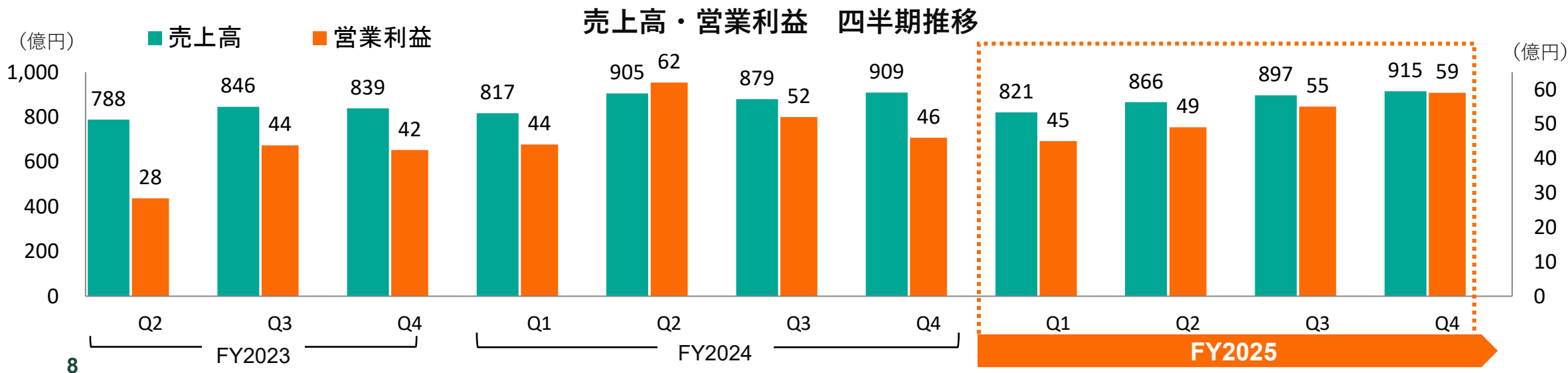
為替など好条件の昨年と比較し**減収**も、成長・収益基盤事業のグラビアインキ、缶用塗料、機能性コーティング剤などが堅調。戦略的重点領域では、塗工材、ディスプレイ用粘着剤が伸長。

営業利益

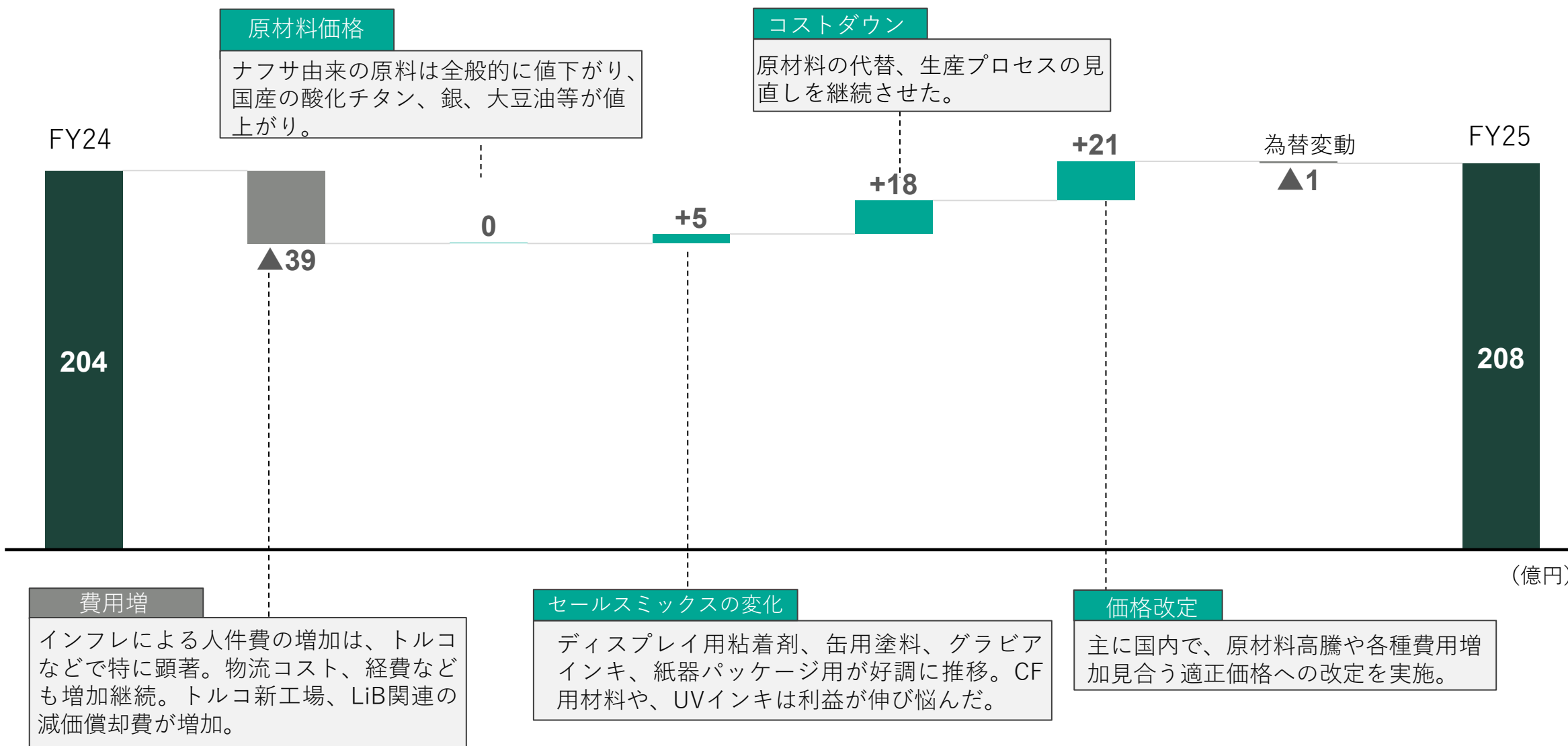
国内はコストダウンと価格改定を継続、ナフサ価格も落ち着き増益基調。LiB用CNTは低調、CF用材料は前年割れも、海外はディスプレイ向けの光学粘着剤の好調や、成長事業がインド・東南アジアを中心に拡販進み堅調。国内のリキッドインキ、顔料の寄与もあり、トータルで**増益**。

親会社株主に帰属する 当期純利益

EV市況の低迷を受け、米国ケンタッキー州新工場やハンガリー工場の**減損損失**を計上。トルコでの税法変更により税負担が増加したこともあり、**減益**。



2025年度 営業利益の増減要因分析



2025年度 事業セグメント別実績概況

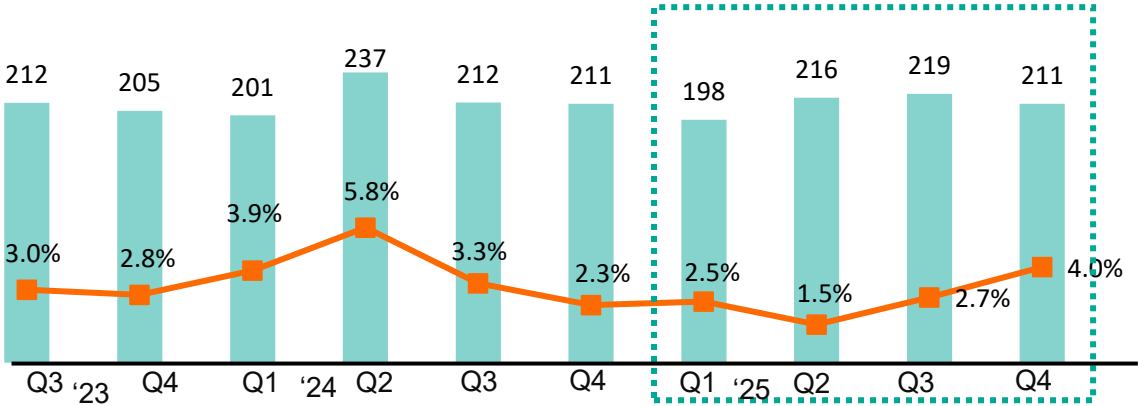
	24年度 実績（億円）		25年度実績 （億円）		増減率(%)	
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益
色材・機能材	861	34	843	23	▲2.1	▲33.1
ポリマー・塗加工	885	72	903	83	2.0	15.9
パッケージ	915	54	925	55	1.1	0.9
印刷・情報	833	49	810	45	▲2.8	▲7.3
その他・調整	16	▲ 4	19	2	-	-
連結	3,511	204	3,500	208	▲0.3	1.7

2025年度 事業セグメント概況（色材・機能材）

■売上/営業利益 減収減益。着色剤(国内)が復調も、LiB用CNT分散体、CF用材料が低調に推移。

実績	24年度実績	25年度実績	YonY 増減率(%)
売上	861	843	▲2.1
営業利益	34	23	▲33.1

(億円)



四半期売上・営業利益率推移 (億円)

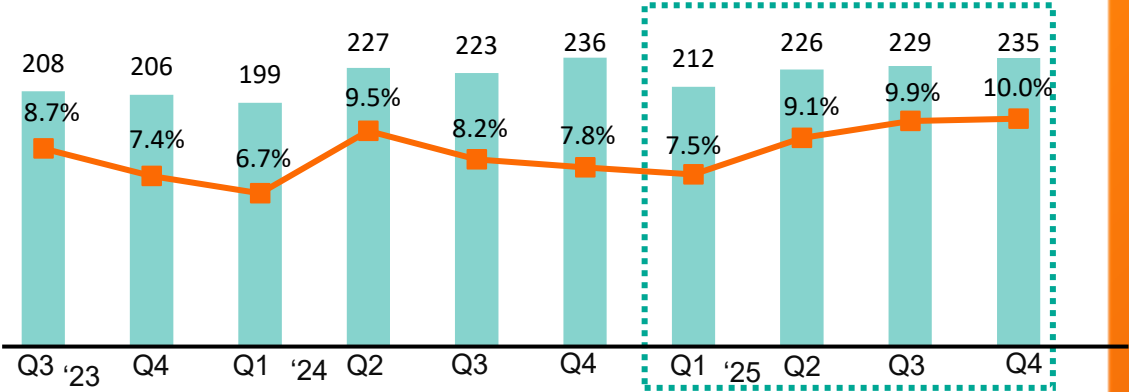
YonY売上増減		概況
CF用材料	▲5.4%	CF用材料は、Q4に中国合併会社を通じた現地生産品の試作販売がスタート。中国市場向けは昨年並みも、台湾の中小型市場の鈍化もあり減収。センサー用途は順調に拡販が進む。
着色剤	▲3.8%	国内は価格改定、コストダウン効果もあるが、中国での太陽電池向け材料の停滞影響が大きく、減収減益。東南アジアの家電、OA関連は好調、北米自動車向けは前年並み。
顔料	▲3.8%	オフセット向けの減少続くも、前年までの省力化によるコストダウンや価格改定が寄与し減収増益。
その他	11.4%	インクジェットは商業印刷、ラベルなどが堅調で増収増益。新規エレ用途など実績化。LiB用CNT分散体は、欧州堅調も、北米市場の大幅減速、中国での立ち上げ遅れで苦戦。負極向けなどの開発を加速。

2025年度 事業セグメント概況（ポリマー・塗加工）

■売上/営業利益 増収増益。中国のディスプレイ向け光学粘着剤や、国内外の缶用塗料が増益に寄与。

実績	24年度実績	25年度実績	YonY 増減率(%)
売上	885	903	2.0
営業利益	72	83	15.9

(億円)



四半期売上・営業利益率推移 (億円)

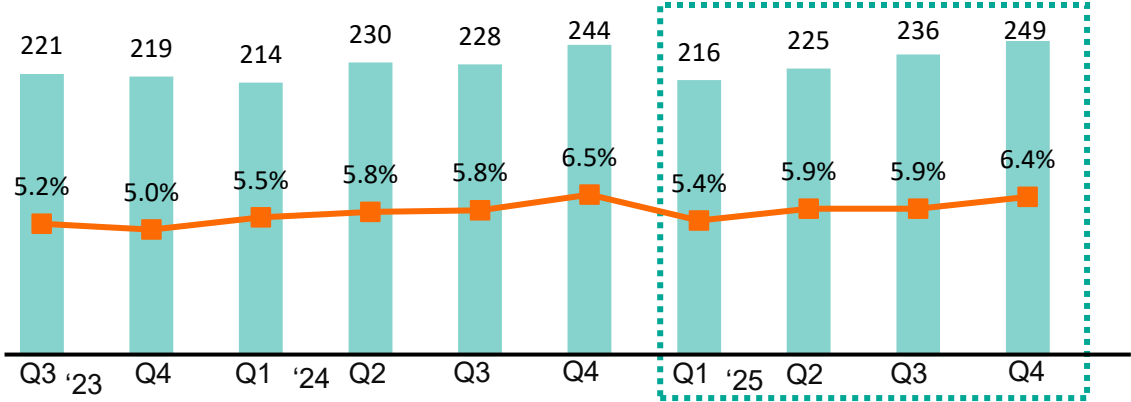
	YonY売上増減	概況
塗工材料	5.9%	機能性フィルムは、モバイル端末向けの中国での拡販により増収も、原材料の銀の価格高騰で減益。2026年第1四半期より価格改定を実施予定。半導体絶縁材料の出荷も継続。
接着剤	0.1%	粘着剤は、中国でディスプレイ向け光学用をはじめとして大幅伸長し、さらなる拡販に向けて増設を決定。インドでも、輸入テープの国内生産の流れを取り込み大きく拡大。ラミネート接着剤は、包装用が国内で堅調に推移も、海外では中国や東南アジアの一部地域の景気低迷の影響を受ける。
塗料樹脂	4.3%	缶用塗料は、国内では拡販により収益改善。海外では、タイでの食缶用の需要増や新規拡販により伸長、トルコでも野菜缶向けが大手への拡販が進みシェア向上。

2025年度 事業セグメント概況（パッケージ）

■売上/営業利益 増収増益。売上・営業利益ともに前年並み。国内は堅調、東南アジア・インドが好調。

実績	24年度実績	25年度実績	YonY 増減率(%)
売上	915	925	1.1
営業利益	54	55	0.9

(億円)



四半期売上・営業利益率推移（億円）

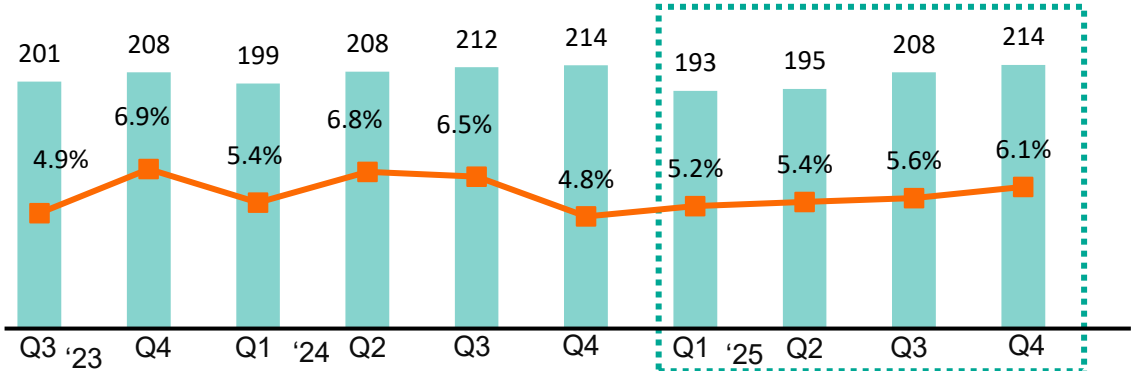
	YonY売上増減	概況
国内 リキッド インキ	1.4%	増収増益。食品包装用は、高価格帯商品向けが伸び悩むものの、新規の拡販により好調に推移。 品種統合による生産効率化、固定費削減や価格改定を継続。
海外 リキッド インキ	▲0.4%	中国は生産販売体制の強化のため再編を実施。東南アジア・インドは需要堅調で、インドはシェア拡大が進み、 3Qに追加投資を決定。サプライチェーンの最適化によりコストダウン進める。トルコQ1が低調も、新工場稼働し、 Q2から回復し、数量/売り上げは前年を上回った。

2025年度 事業セグメント概況（印刷・情報）

■売上/営業利益 減収減益。国内の情報系印刷市場は縮小も油性3品種で黒字化、機能性コーティングが好調。

実績	24年度実績	25年度実績	YonY 増減率(%)
売上	833	810	▲2.8
営業利益	49	45	▲7.3

(億円)



四半期売上・営業利益率推移（億円）

	YonY売上増減	概況
オフセット インキ (一般インキ)	▲6.1%	減収減益。国内は生産販売体制の改革継続や物流費なども含めた価格改定の推進により、油性3品種で黒字化も、海外の枚葉インキは市場縮小や出版・紙器向けで伸び悩んだ。
機能性 インキ※	▲0.0%	減収減益。国内のUVインキは商業印刷やカードが好調、紙器・ラベルなど包装関連は、需要低迷により低調。海外は中国でNon-VOC品その他拠点向けが好調、欧州は人件費高騰や失地もあり減益。高級紙器向けの機能性コーティング剤は好調に推移。

※機能性インキ：UVインキ、金属インキ、スクリーンインキ

2026年度 通期計画と見通し



2026年度 通期計画 (億円)

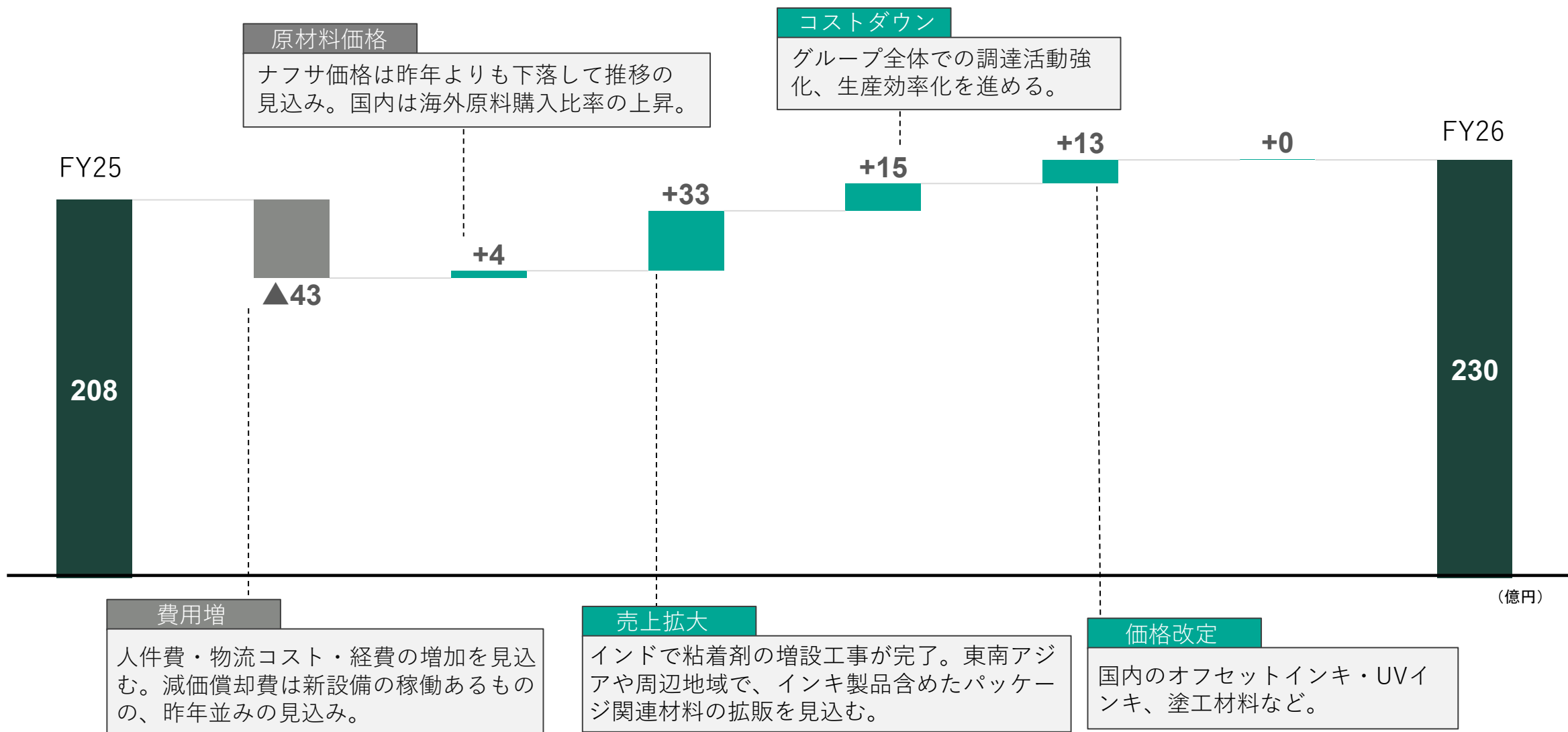
	25年度実績	26年度計画	増減率
売上高	3,500	3,600	2.9%
営業利益	208	230	10.8%
経常利益	209	225	7.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	103	210	103.1%
営業利益率	5.9%	6.4%	+0.5 (point)
海外売上高比率	55.1%	—	—
ROE	3.9%	8.0%	+4.1 (point)

計画の前提となる指標と実績

		24年度 平均	25年度 平均	26年度 前提
為替	1 USD	¥152.2	¥149.8	¥150.0
	1 EUR	¥164.4	¥169.5	¥170.0
	1 RMB	¥21.1	¥20.9	¥20.0

		24年度 平均	25年度 平均	26年度 前提
原料	ナフサ(/KL)	¥75,400	¥67,125	¥65,000

2026年度 営業利益の増減要因見通し



2026年度 事業セグメント別見通し

- **色材・機能材**：CF用材料はスポーツイベントによるパネル市場の伸びを期待、センサー関連材料の堅調な推移を見込む。CNT分散体は、赤字幅を縮小させ、27年度の黒字化を見込む。着色剤は、機能材料製品の拡販およびコストダウンにより、インクジェットインキは、軟包装向けやエレクトロニクス向け拡販による増益を目指す。
- **ポリマー・塗加工**：機能性フィルムは、半導体不足による端末の出荷減の懸念あるも、価格改定を実施し前年同等見込み。海外の接着剤や塗料の好調は継続。生産能力の増強やSCMの最適化、アライアンス主導での拡販を目指す。
- **パッケージ**：海外は東南アジア、インドを中心に好調続き、トルコ新工場や拠点再編した中国を軌道化させる。国内は生産効率化や安定品質の維持を進め、増益を目指す。
- **印刷・情報**：海外は高感度UVインキを軸に、市場ごとに戦略を策定し拡販推進。特に中国は、華東地区を重点拡販。国内情報印刷系の市場縮小に合わせた構造改革と価格改定を継続。カード向けなどの伸長分野を確実に取り込んでいく。

	25年度実績（億円）		26年度計画（億円）		増減率(%)	
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益
色材・機能材	843	23	850	35	0.8	55.3
ポリマー・塗加工	903	83	950	90	5.2	8.5
パッケージ	925	55	960	60	3.8	9.8
印刷・情報	810	45	820	50	1.2	10.4
その他・調整	19	2	20	▲ 5	-	-
連結	3,500	208	3,600	230	2.9	10.8

中期経営計画artience2027の進捗



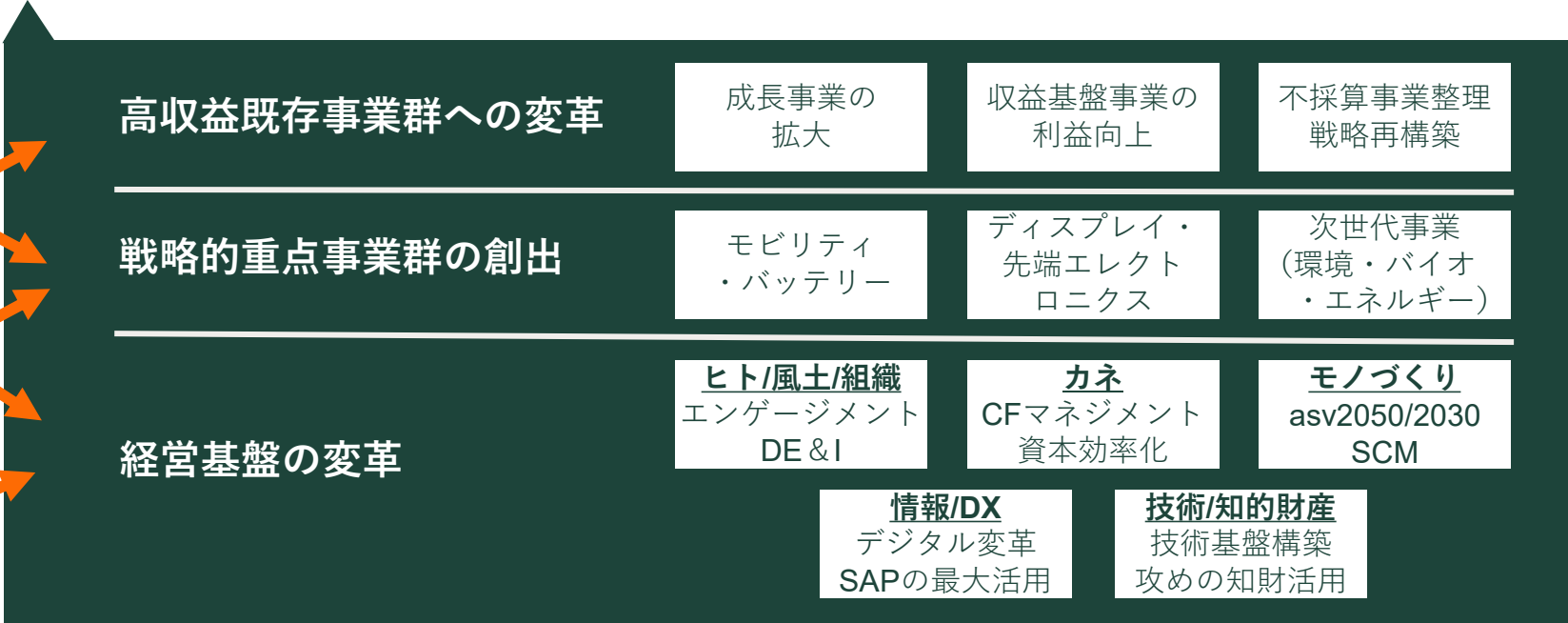
経営計画 artience2027/2030 “GROWTH”

〔目指す姿〕
心豊かな未来
持続可能な社会
企業価値最大化

	2023 12月期	2024 12月期	2025 12月期	2026 12月期	2029 12月期
売上高	3,221億円	3,511億円	3,500億円	4,000億円⇒ 3,600億円	5,000億円
営業利益	134億円	204億円	208億円	250億円⇒ 230億円	
営業利益率	4.2%	5.8%	5.9%	6.4 %	
ROE	4.2%	7.3%	3.9%	8.0%	10.0%以上

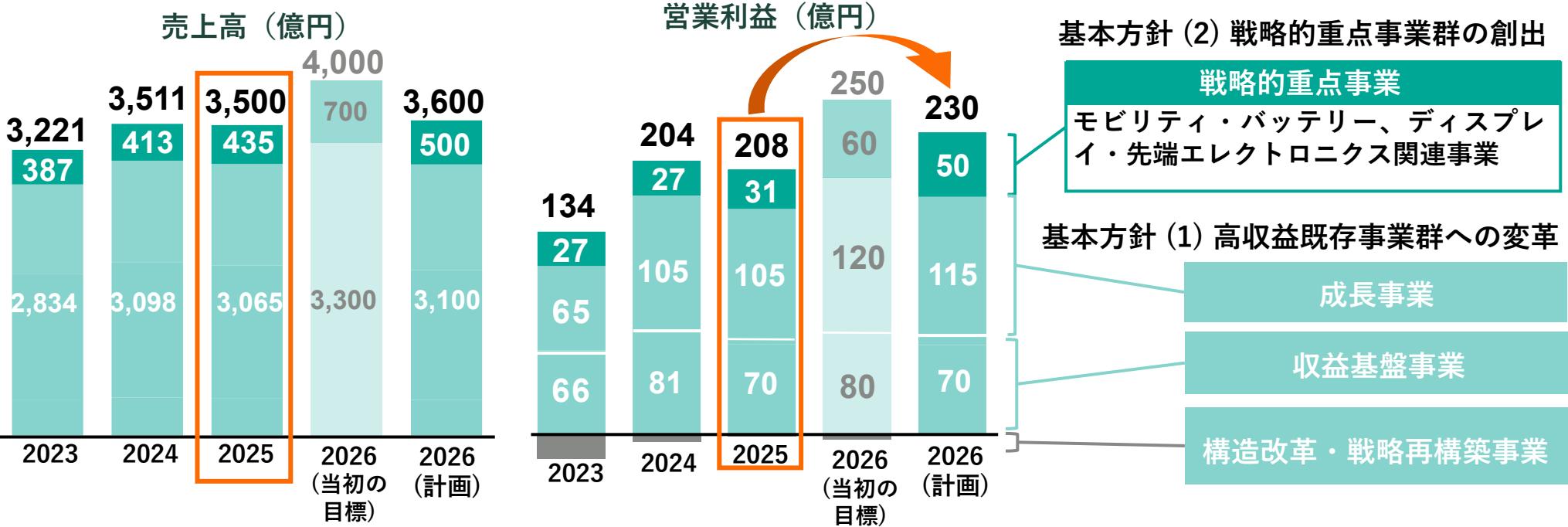
artience2027

- 事業ポートフォリオの変革
- 資本効率と
キャッシュフローの最大化
- 企業基盤構築と
サステナビリティ経営実践



artience2027/2030 “GROWTH” —2025年までの進捗、2026年に臨むにあたり—

- 2025年、高収益既存事業群では**収益力の強化が着実に進展**。一方、戦略的重点事業群では、**外部環境の影響により立ち上がりに時間を要した**。
- こうした状況を踏まえ、2026年は中期経営計画の営業利益目標には至らずも、**前年同期比11%の増益**を見込む。



※合計値はその他・調整を含む

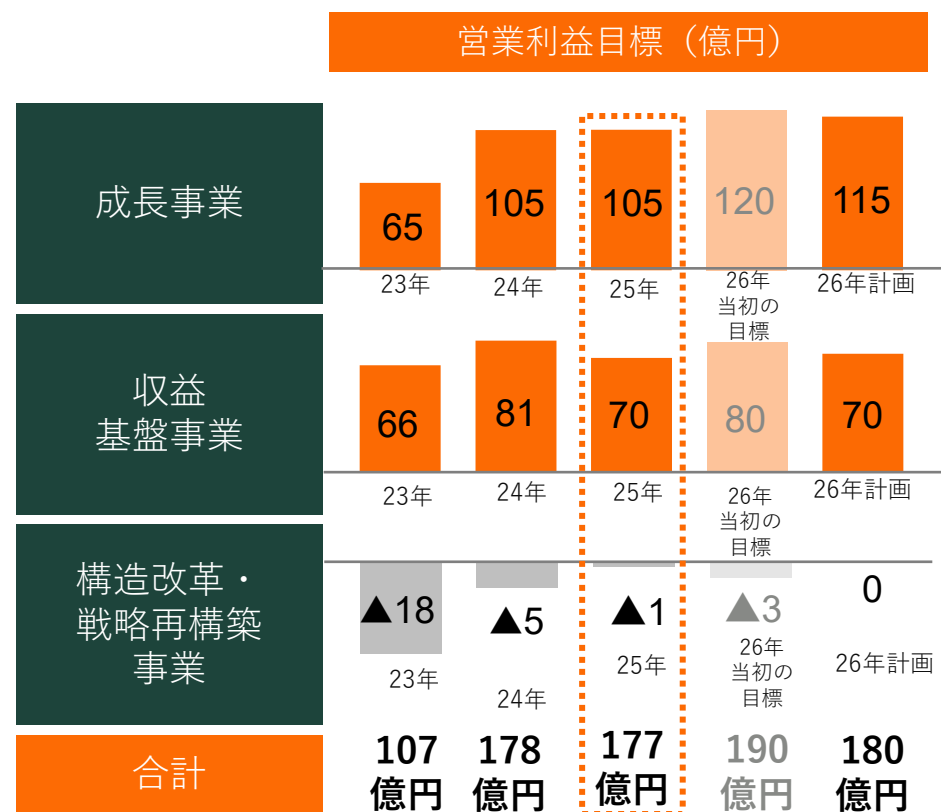
中期経営計画artience2027の進捗

ー基本方針（1）高収益既存事業群への変革



artience2027/2030 “GROWTH”に向けて

— 高収益既存事業群の収益における2025年実績と、2026年の見通し —



※合計値はその他・調整を含む

※構造改革・戦略再構築事業には次世代事業を含む

■ 2025年は、上半期での前年好調の反動や一部用途での需要減速がみられたものの、**前年並みの利益水準を確保。**

■ 2026年は、**成長事業**では海外でのリキッドインキや粘着剤、UVインキの更なる伸長を見込む。
収益基盤事業は当初の目標に至らずも、25年並みの実績を見込む。

成長および構造改革・戦略再構築が伸長の見通し。

ポートフォリオ変革の2年間の進捗①
ー 成長ドライバーへのシフトと構造改革の推進ー

- 2年間における取組み：
- 生活関連分野の安定需要を基盤に、海外（インド・東南アジア等）への展開を強化。
 - 事業ポートフォリオの見直しとして、成長領域への重点配置と、構造改革を実施。

	色材・機能材	ポリマー・塗加工	パッケージ	印刷・情報	包装 関連 向け 機能性 インキ
成長事業	インクジェット インキ	（海外）粘着剤、 ラミネート接着剤	（海外） リキッドインキ	機能性コーティング材	
		（海外）製缶塗料		（海外）金属インキ	
収益 基盤事業	プラスチック着色剤	（国内）粘着剤、 ラミネート接着剤	（国内） リキッドインキ	（国内）金属インキ	
		（国内）製缶塗料		（海外） オフセットインキ	
構造改革・ 戦略再構築 事業	顔料			（国内） オフセットインキ	

※代表的な事業のみ記載

ポートフォリオ変革の2年間の進捗②
— 品種別にみた事業規模と収益性の変化 —

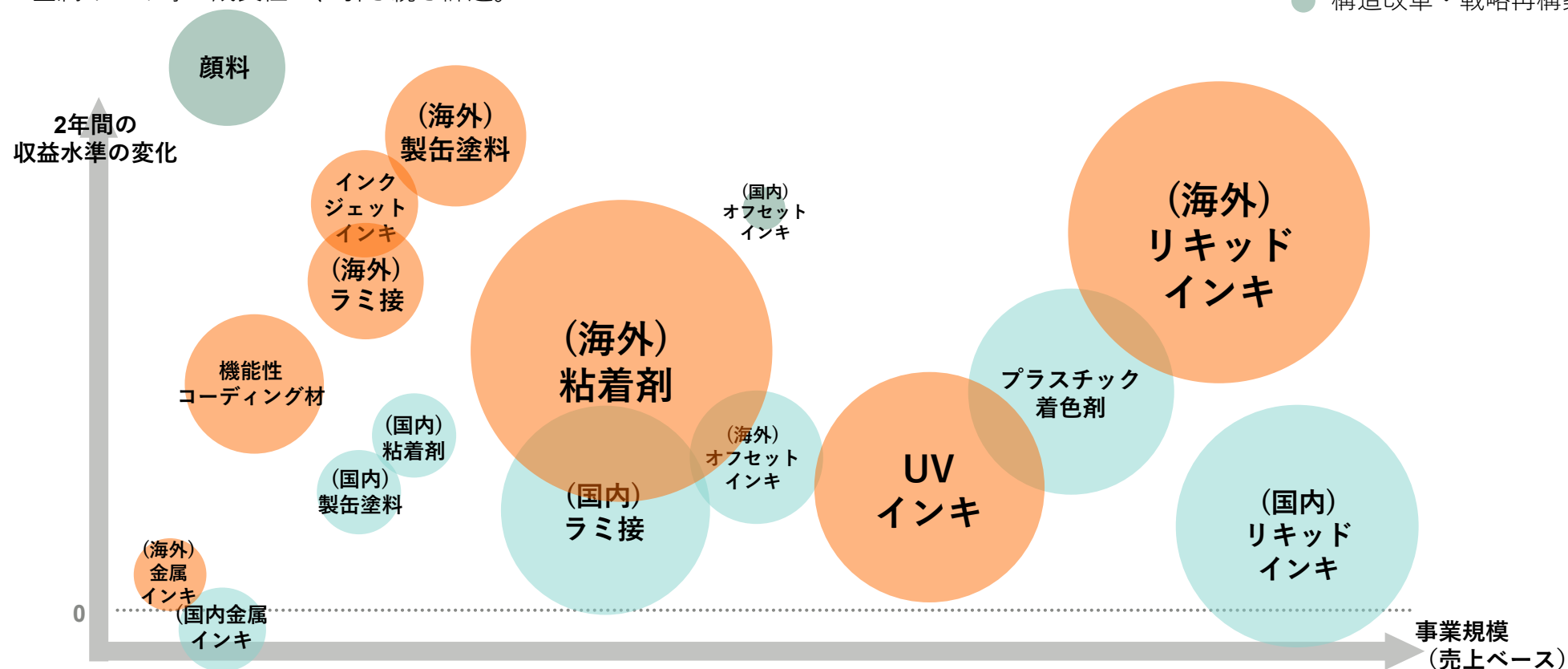
- **2年間のまとめ：ポートフォリオの質的改善が進み、広範な品種で収益性が向上。**

- 海外リキッドインキが、事業規模・収益性の両面で成長ドライバーとして寄与。
- 顔料は、構造改革の大きな進展により、収益性が改善。
- 金属インキ等の成長性が、引き続き課題。

● 成長事業

● 收益基盤事業

● 構造改革・戦略再構築事業



※縦軸は、前中計期間と比較した営業利益水準の改善度（相対）を示す（上ほど改善）。

※円サイズは、営業利益規模（相対）を示す。

※顔料は、内需向けを除く。

グローバル成長市場を取り込む事業構造 — マクロ環境と当社の構造的優位性 —

（ポリマー・塗加工、パッケージ）

■成長機会

- 人口増加や中間層拡大を背景に、**アジア**を中心とした生活関連・包装分野の需要は中長期的に拡大。
- 環境対応・品質要求の高度化により、包装材・機能材の安定供給体制の重要性が高まっている。

■当社の事業構造

- 当社は、**量産性、品質、供給安定性**が求められる市場特性に適合した事業を展開。
- 長年にわたり構築した**強固なネットワーク**による購買の最適化、**ブランド力、現地ニーズ**に即した開発体制を通じ、成長市場に対応可能な事業構造を構築。

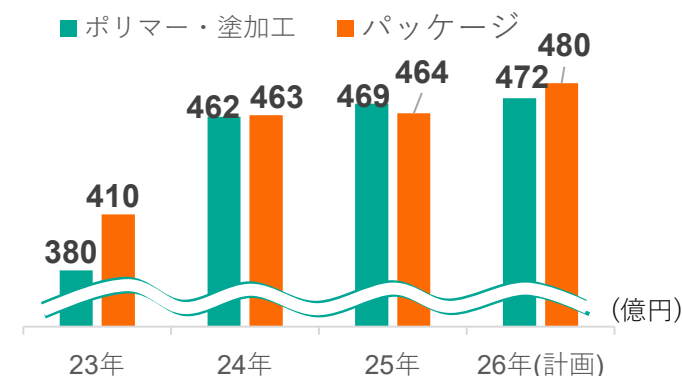
■ 2025年、アジアを中心に収益成長が進展

- 前中計で実施した海外の設備投資やタイのM&Aが寄与し、アジア中心に安定に推移。
- トルコの新工場稼働等、成長市場を取り込むための生産・供給体制の強化しドライブをかける。

<稼働したトルコの新工場>



<海外売上の推移※>



※海外の実績は地域間消去を反映していません

成長市場への対応と効率化投資による基盤強化

— 海外成長投資 × 国内効率化投資 —

- 2025年11月、市場環境の異なる海外と国内それぞれで、成長投資と効率化投資を決定。

海外リキッドインキ

- 成長を続けるインド市場に対応し、
リキッドインキの生産体制強化を推進。
 - ・ インド・グジャラート工場において、リキッドインキ生産設備の増強を決定（2028年稼働予定）。
 - ・ 生産能力を約1.5倍に拡大し、成長市場の需要に対応。
 - ・ 周辺国輸出も視野に入れた中核拠点として位置付け。
- ◆ インド・グジャラート工場（成長市場対応の中核拠点）



国内リキッドインキ

- 海外拠点への展開、全社最適化
- 効率化投資による事業基盤の強化
- 省人化・自動化による効率化
- ◆ 埼玉製造所（国内リキッドインキ生産拠点）



中期経営計画artience2027の進捗

ー基本方針（2）戦略的重点事業群の創出



モビリティ・バッテリー関連事業：LiB用CNT分散体

■拠点別概況と今後の見通し：期待していた北米EV市場の減速により、車載以外にも注力。

 欧州
(ハンガリー)

- 顧客数2。数量/売上は前年を上回るも、当初見込みより市場は減速。
- 2025年に増設工事を終え、2026年Q2までに2社目向け製品の現地生産を開始。

 米国
(GA州,KY州)

- 顧客数1*。数量/売上ともに前年を上回る。
- 市場低迷による顧客の計画延期や事業取りやめにより内定顧客数が減少(4社→2社)。
- ケンタッキー工場の稼働計画を見直し、減損損失を計上。

 中国
(珠海)

- 顧客数1。顧客内の切り替え作業が遅れ、当社品の出荷量の増加が26年Q2へずれ込んだ。
- エンドの対象車種が欧州車以外へも拡大。年内に負極向け材料の量産化を目指す。

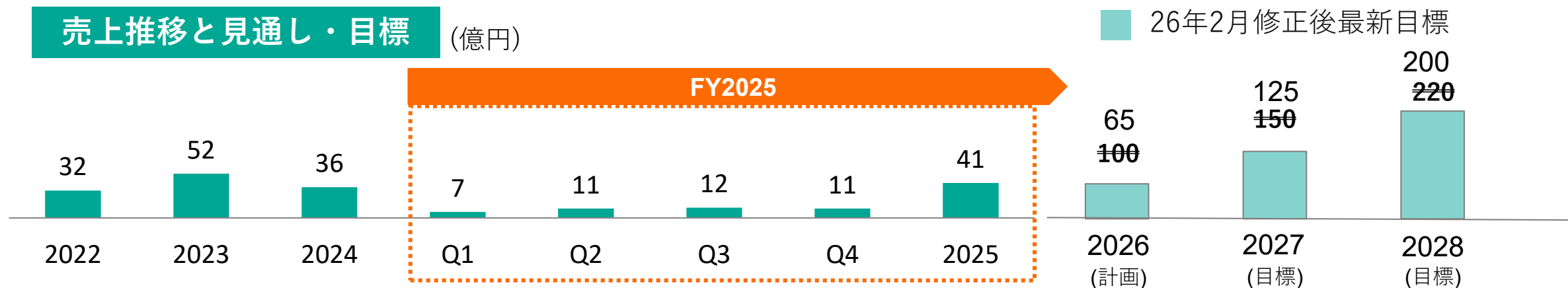
 日本
(富士)

- 顧客数1*。市場鈍化により、内定1社の需要消失。拡販先でも計画の後ろ倒しがみられた。
- HEV向けのCNT分散体は順調に出荷が継続している。全固体向け開発も進む。

*米国はSKオン株式会社、日本はトヨタバッテリー株式会社向け。

売上推移と見通し・目標

(億円)



ディスプレイ・先端エレクトロニクス関連事業 ― 市場変化を捉えた収益拡大のほか、半導体向けも進捗 ―

- ディスプレイ向けは**収益拡大**、先端エレクトロニクス向けの**成長期待**。

ディスプレイ

CF材料

- ・ 中小型の回復鈍い状況。
- ・ 中国企業との**JV**を設立し、**2025年末**からレジストインキの生産を開始。中国シェア拡大と中小型の販路拡大を目指す。

光学用 粘着剤

- ・ **2025年の収益成長**に大きく寄与。
- ・ マーケットにおける中国シフトへの対応。
- ・ 車載向け高耐熱付加価値品を展開。
- ・ 環境配慮ニーズに対応するバイオマス粘着剤を拡大。

先端エレクトロニクス

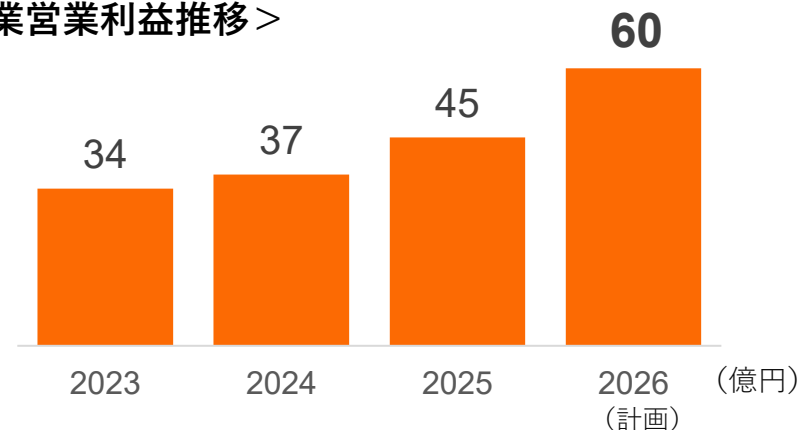
センサー (光半導体)

半導体 関連材料

- ・ **光半導体向けセンサー材料**は、**2025年順調に実績化**がすすむ。
- ・ 次世代センシング用材料の拡充。
- ・ データセンター等で利用される**低誘電樹脂**や、絶縁性・柔軟性にすぐれた**機能性フィルム**（リオテラン®）が半導体封止材料として**実績化**。



<ディスプレイ・先端エレクトロニクス関連
事業営業利益推移>



中期経営計画artience2027の進捗

ー基本方針（3）経営基盤の変革



ESGに関する取り組み

E

サステナビリティビジョンasv2050/2030達成に向けて

- 国内外複数拠点において再生エネルギー由来電力の導入や太陽光発電設備を追加導入（24年、25年の新規／追加導入拠点：ベルギー、天津、上海、富士、守山、千葉）。
- 脱炭素に向けた施策 ロードマップの策定カバー率向上（グローバル）。（23年60%⇒24年88%⇒**25年97%**（CO2排出量ベース）。
- CDPの**スコアがBへ昇格**（気候変動分野／水セキュリティ分野）。

S

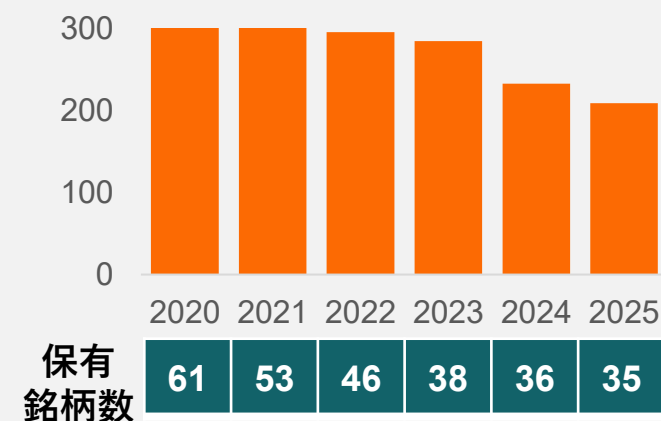
エンゲージメント向上、DE&I実現に向けた施策の推進

- 第三者機関による**サーベイ**を2年連続で実施し、課題点を改善、スコア向上。
- **外国籍人材**の開発・MK・生産・管理部門での採用拡大（実績12名）。
- **新卒女性採用比率の向上**（前年41.2%→26年度**53.6%**）。
- 理念浸透とGROWTHへの意識向上のため、CEOが国内外で**座談会**を継続開催。

G

資本効率性向上や株価を意識した経営への取り組み

- 自己株式の消却^{※1}、自己株式取得^{※2}、保有株式削減の継続。
- ガバナンス体制の強化、**ROEを重視した経営、ROIC指標の導入**。
- 社内取締役報酬の業績連動比率を向上し、**指標にROE基準**を追加（25年3月～）。
- SR・IR活動を強化。

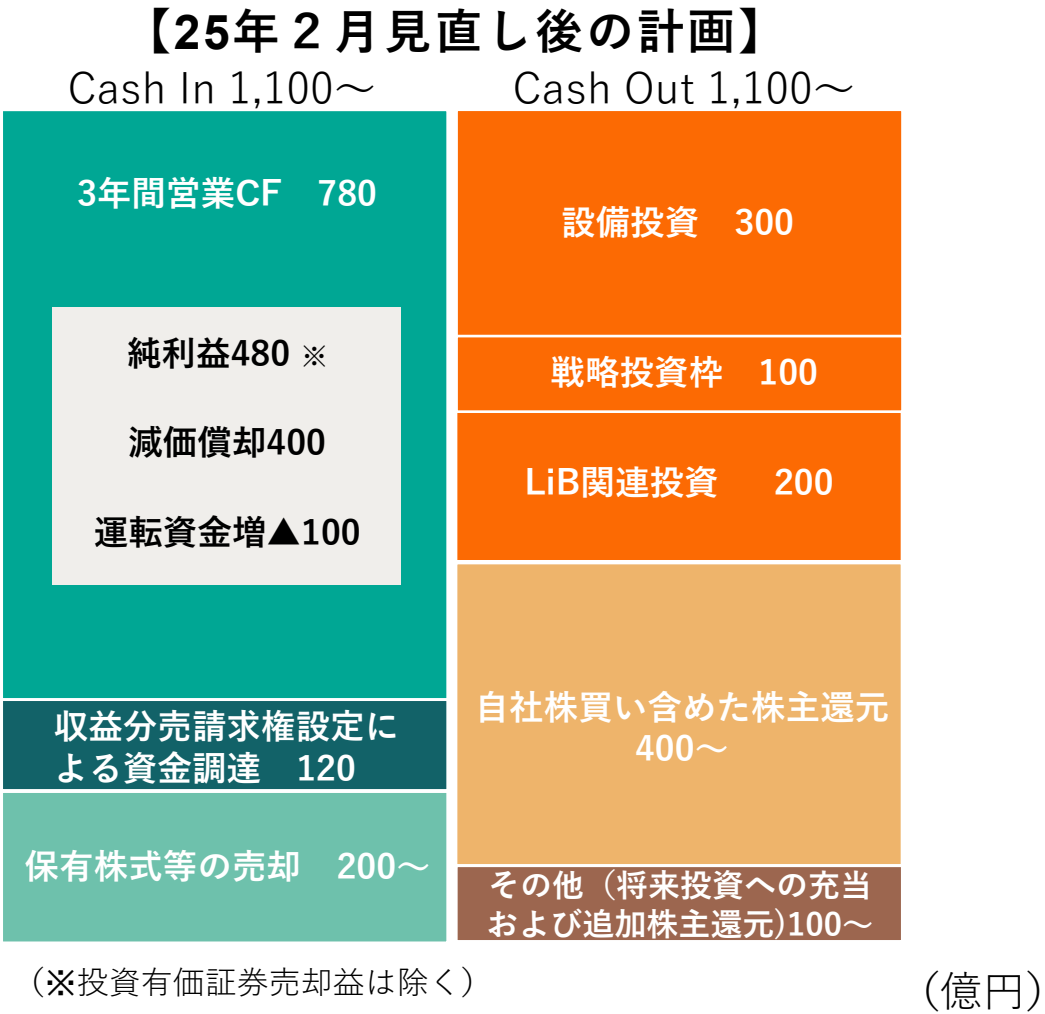
■ 上場株式保有額の推移
（簿価ベース）

※1：2024年5月末、2025年5月末実施

※2：100億円もしくは450万株上限（取得期間24年8月13日～/ 25年5月12日～各1年間）

中計3年間の資本政策およびキャッシュアロケーションの進捗

- キャッシュインは概ね計画通りも、LiBの市況鈍化により関連の投資は減少。成長投資を拡大。



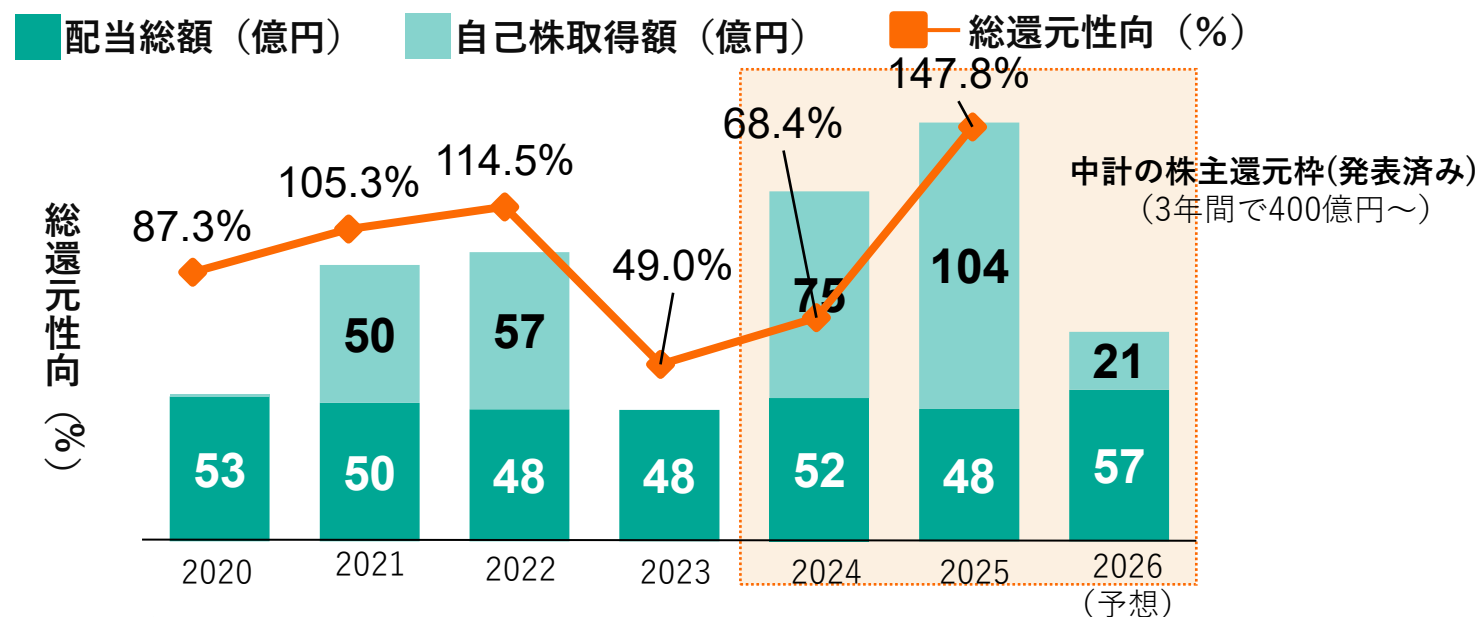
【本中計での見込み】

項目	2024-25	累計見込み
営業CF	545	760
資金調達 (収益分売請求権)	65	80
保有株式の売却	141	200～
設備投資	220	300
追加設備投資 成長＋効率化	43	100
戦略投資	0	検討中
LiB関連投資	76	110
株主還元	281	400～

中期経営計画artience2027 株主還元方針

- 2026年は、利益成長を背景とした**増配**を実施予定。

- 安定配当を基本としつつ、利益達成時のキャッシュの余剰を戦略投資および自社株取得などの株主還元増へ充当する
- 総還元性向**50%以上**とする



1株あたり年間 配当金 (円)	90	90	90	90	100	100	120
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	60	95	93	97	185	103	210

※100億円もしくは450万株上限（取得期間24年8月13日～/ 25年5月12日～各1年間）

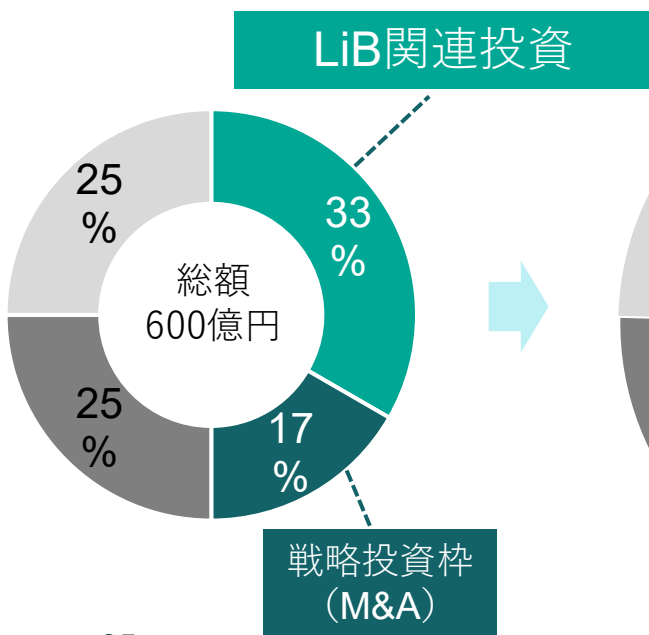
設備投資計画の進捗

- 3年間総額600億円の設備投資を計画。LiB関連投資は市況鈍化に伴い、大幅に減額。100億円とした戦略投資枠でM&Aを検討中。成長投資と効率化投資を拡大。

中期経営計画3年間総額 設備投資計画の配分

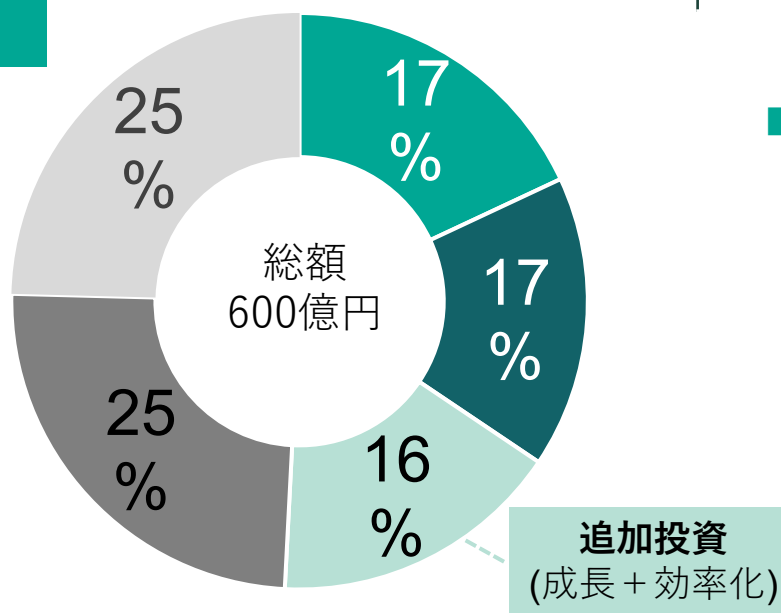
■ 戦略的重点事業群 ■ 高収益既存事業群 ■ 国内外拠点の基盤強化

【2025年2月見直し後】



35

【2026年2月見直し後】



3年間の 設備投資計画・減価償却費

	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (計画)
設備投資	184	155	179
減価償却費	121	133	130

※設備投資：実績は検収ベース、計画は発注ベース

■ 主要な設備投資

LiB用CNT分散体向け

2025年度：71億円→19億円へ減額

2026年度：30億円（3年計110億円見込み）

粘着剤(印)、新工場(トルコ、リキッドインキ・ラミ接)、**リキッドインキ(印、日)、中国粘着剤**
(太字は2025年決定)

中期経営計画artience2027の進捗

－企業価値向上に向けた取り組み



ROE・資本効率向上への取り組み

- ROEは、2025年に減損損失計上の影響を受け一時的に低下。
- 2026年は、収益改善を背景に8.0%超の達成を目指し、株主資本コスト（約8%）を上回る水準の実現を通じて、PBR向上を図る。

事業ポートフォリオ変革

- ・ 高収益既存事業群の収益力強化。
- ・ 戦略的重点事業群は、ディスプレイ(光学用粘着剤)と先端エレクトロニクスは堅調も、一部の事業領域で伸び悩みがみられる。

資本効率の向上

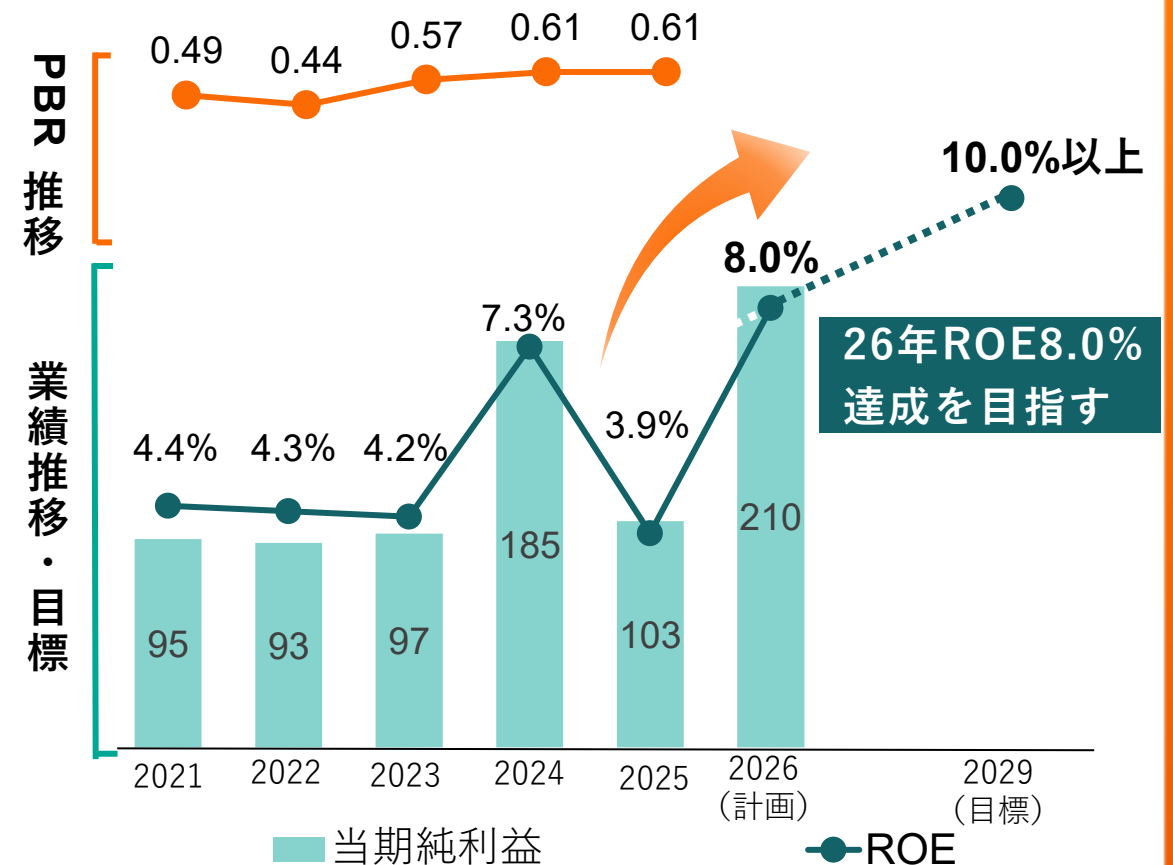
- ・ ROIC指標の全社導入を通じ、資本効率の改善が進む。
- ・ 24年以降、CCC改善に向けた取り組みを継続。25年は111日⇒112日と横ばい水準で推移

資本政策

- ・ 総還元性向に基づく株主還元の充実（25年実績：自己株式取得※1）、26年は、**前期比20円増配**を見込む。
- ・ 保有株式の縮減（24年：95億円売却、25年46億円売却）。
- ・ 自己株式の消却（24年5月末、25年末に実施）。

資本コスト低減の取り組み

- ・ 適時適切な情報開示、積極的な情報発信などIR活動の強化、ステークホルダーとの対話強化。



本日のメッセージ



成長への投資を、まず第一に優先

- ✓ インド、トルコなど海外中核拠点での成長促進
- ✓ LiB関連は、次世代開発を継続しつつ、市場の変化に対応した生産体制へ
- ✓ 半導体関連材料の伸長へ向けた、新たな体制を構築

企業価値向上を重視した経営の推進

- ✓ 中計最終年度である2026年末にROE8.0%以上の達成を目指す
- ✓ ROIC指標の活用、保有株式の縮減、株主還元の強化

■ IRに関するご質問・お問い合わせ先 ir@artiencegroup.com

■ ウェブサイト <https://www.artiencegroup.com>

■ 主要ニュースリリース

- artienceグループ、インド理科大学院（IISc）内に国外初の研究拠点を開設（2026年2月12日）
<https://www.artiencegroup.com/ja/news/2026/26021201.html>
- 対戦カードに合わせて最適なユニフォームの組み合わせを選択できる東洋インキの配色ツールがJリーグで試験導入（2026年2月4日）
<https://www.artiencegroup.com/ja/news/2026/26020401.html>
- artienceのIRサイトが3つの主要な評価機関で高評価を獲得（2026年1月9日）
<https://www.artiencegroup.com/ja/news/2026/26010901.html>

■ IRスケジュール（予定） ※都合により予告なく変更する場合がございます

- FY2026Q1：決算発表（5月15日）、決算説明会（5月22日）
- FY2026Q2：決算発表（8月7日）、決算説明会（8月10日）
- FY2026Q3：決算発表（11月13日）、決算説明会（11月20日）

インド・ベンガルールに海外初の研究拠点を開所

aTIC－India（読み方：エイティックインディア）

狙い：世界最大級の消費地・生産地で、顧客やブランドオーナーの課題解決、潜在ニーズに応えていく。

研究：インフラ、通信、ヘルスケア、エネルギー、先端エレクトロニクス向けに、持続可能で高性能な次世代素材を開発するための分子レベルの研究。

場所：インド理科大学院内（ベンガルール）

*インドの国立高等教育機関のひとつ。インドにおける最先端の科学技術研究・教育を行う、最高峰の機関と言われている。

開設：2026年2月4日



參考資料



連結BS・PL概況

(億円)

	24年度 累計実績	25年度 累計実績	増減率(%)	2026年12月期 通期予想
売上高	3,511	3,500	▲0.3	3,600
営業利益	204	208	1.7	230
経常利益	210	209	▲0.6	225
親会社株主に帰属する 当期純利益	185	103	▲44.2	210
営業利益率	5.8%	5.9%	+0.1 (point)	6.4%
海外売上高比率	55.4%	55.1%	▲0.3 (point)	

	2024年 12月末	2025年 12月末
有利子負債(億円)	839	667
自己資本比率(%)	55.4	57.5
D/Eレシオ	0.39	0.32

2025年 12月期	中間	期末
配当 (円/株)	50	50

(億円)

	2024年 12月末	2025年 12月末	増減率(%)
流動資産	2,453	2,277	▲7.2
固定資産	2,275	2,349	3.3
資産合計	4,728	4,626	▲2.2
流動負債	1,395	1,061	▲23.9
固定負債	596	793	33.1
負債合計	1,990	1,854	▲6.9
純資産合計	2,738	2,772	1.3
負債純資産合計	4,728	4,626	▲2.2

	2024年12月末	2025年12月末
連結子会社数	56	56
持分法適用会社数	4	5

事業別セグメント実績

		2025年12月期 第4四半期（3か月） 実績（億円）		増減率 前年同期比較（％）		増減率 2025年12月期 第3四半期比較（％）		当期累計実績 （億円）		増減率 前年同期比較（％）	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
色材・ 機能材	日本	110	5	▲ 3.9	▲ 4.3	18.9	-	395	6	▲ 5.3	▲ 56.2
	海外	155	8	▲ 1.2	99.5	▲ 4.2	292.2	620	14	▲ 3.2	▲ 30.9
	合計	211	9	▲ 0.0	72.3	▲ 3.5	45.6	843	23	▲ 2.1	▲ 33.1
ポリマー・ 塗加工	日本	139	5	▲ 4.4	12.8	0.8	▲ 29.4	551	21	▲ 1.8	▲ 14.5
	海外	126	18	4.7	33.1	3.4	11.3	469	61	1.5	30.5
	合計	235	24	▲ 0.1	27.9	2.7	4.1	903	83	2.0	15.9
パッケージ	日本	124	8	▲ 2.0	▲ 4.0	1.4	14.1	483	27	2.1	13.0
	海外	131	8	5.5	3.8	9.0	15.8	464	28	0.2	▲ 9.2
	合計	249	16	2.1	0.5	5.5	14.3	925	55	1.1	0.9
印刷・情報	日本	111	7	3.6	67.5	10.2	42.2	407	18	1.8	24.6
	海外	119	6	▲ 0.7	▲ 2.3	▲ 3.5	▲ 15.3	465	27	▲ 5.1	▲ 22.9
	合計	214	13	0.3	28.4	2.9	12.3	810	45	▲ 2.8	▲ 7.3
その他		17	▲ 1	3.9	-	16.4	-	57	3	▲ 1.6	-
調整		▲ 10	▲ 1	-	-	-	-	▲ 38	▲ 1	-	-
連結		915	59	0.7	27.5	2.1	7.0	3,500	208	▲ 0.3	1.7

（注）事業セグメントの日本・海外の実績には地域間消去を考慮していません。

事業別セグメント実績（四半期推移）

		FY2024								FY2025							
		Q1		Q2		Q3		Q4		Q1		Q2		Q3		Q4	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
色材・機能材	日本	96	3	108	5	99	0	114	5	90	▲ 1	103	2	92	0	110	5
	海外	149	3	178	9	156	4	157	4	144	0	159	4	162	2	155	8
	合計	201	8	237	14	212	7	211	5	198	5	216	3	219	6	211	9
ポリマー・塗加工	日本	127	4	146	9	143	7	145	4	133	3	142	6	138	7	139	5
	海外	104	10	122	12	117	12	120	13	109	13	113	14	122	16	126	18
	合計	199	13	227	22	223	18	236	18	212	16	226	21	229	23	235	24
パッケージ	日本	108	4	116	6	122	5	126	9	116	6	121	6	122	7	124	8
	海外	109	7	118	8	111	8	124	7	104	6	109	7	120	7	131	8
	合計	214	12	230	13	228	13	244	16	216	12	225	13	236	14	249	16
印刷・情報	日本	93	3	100	5	99	4	107	4	94	3	101	4	101	5	111	7
	海外	117	8	123	9	131	11	119	6	114	7	110	7	123	7	119	6
	合計	199	11	208	14	212	14	214	10	193	10	195	11	208	12	214	13
その他		14	0	14	▲ 1	14	▲ 0	16	▲ 3	12	2	14	1	14	1	17	▲ 1
調整		▲ 9	▲ 0	▲ 11	▲ 0	▲ 11	0	▲ 11	▲ 0	▲ 10	0	▲ 9	0	▲ 9	▲ 0	▲ 10	▲ 1
連結		817	44	905	62	879	52	909	46	821	45	866	49	897	55	915	59

（注）事業セグメントの日本・海外の実績には地域間消去を考慮していません。

所在地別セグメント実績

当期実績	2025年度 第4四半期（3か月） 実績(億円)		増減率 前年同期比較(%)		増減率 2025年12月期 第3四半期比較(%)		当期累計実績(億円)		増減率 前年同期比較(%)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
日本	501	23	▲ 1.8	23.2	7.1	16.7	1,892	75	▲ 1.0	2.7
アジア	370	31	0.3	25.1	▲ 2.2	10.0	1,444	108	▲ 1.3	14.7
ヨーロッパ	100	3	5.6	▲ 41.5	16.3	699.6	333	5	0.8	▲ 72.4
北米・南米	59	6	9.5	354.2	▲ 3.2	58.6	237	16	▲ 5.9	▲ 11.8
調整	▲ 114	▲ 4	-	-	-	-	▲ 406	3	-	-

連結	915	59	0.7	27.5	2.1	7.0	3,500	208	▲ 0.3	1.7
----	-----	----	-----	------	-----	-----	-------	-----	-------	-----

(参考) 昨年度実績(億円)	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		合計	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
日本	438	14	486	24	477	16	510	19	1,911	73
アジア	335	19	382	25	377	26	369	25	1,463	94
ヨーロッパ	74	3	88	8	73	3	95	5	330	20
北米・中南米	67	6	68	5	63	6	54	1	252	19
調整	▲ 97	2	▲ 118	▲ 1	▲ 111	2	▲ 119	▲ 4	▲ 446	▲ 2

連結	817	44	905	62	879	52	909	46	3,511	204
----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-------	-----

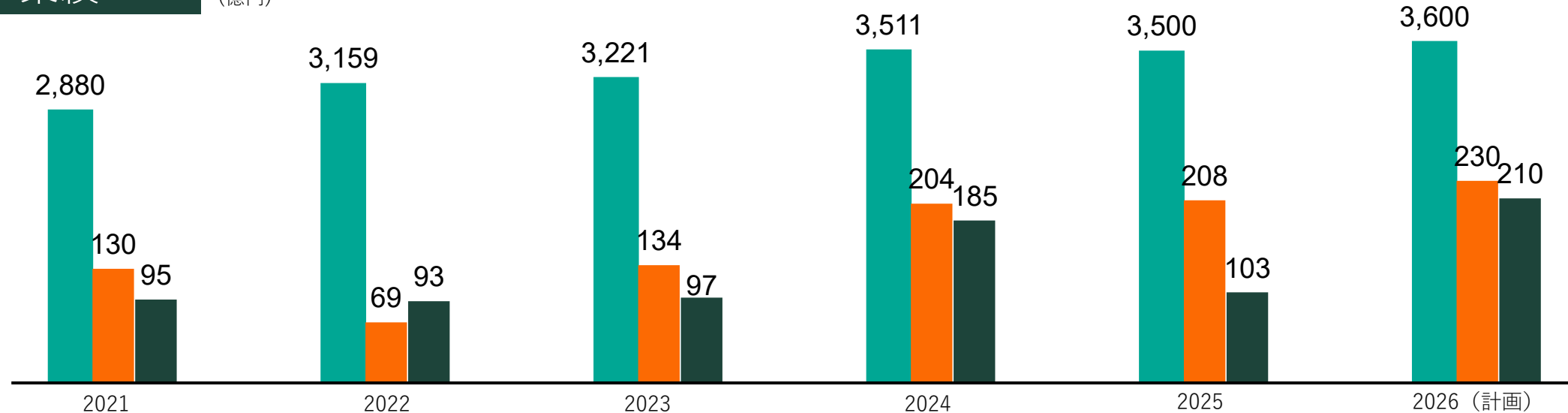
(注) 各所在地の金額は、地域間の取引および全社的な費用を控除していません。

補足財務データ

業績

(億円)

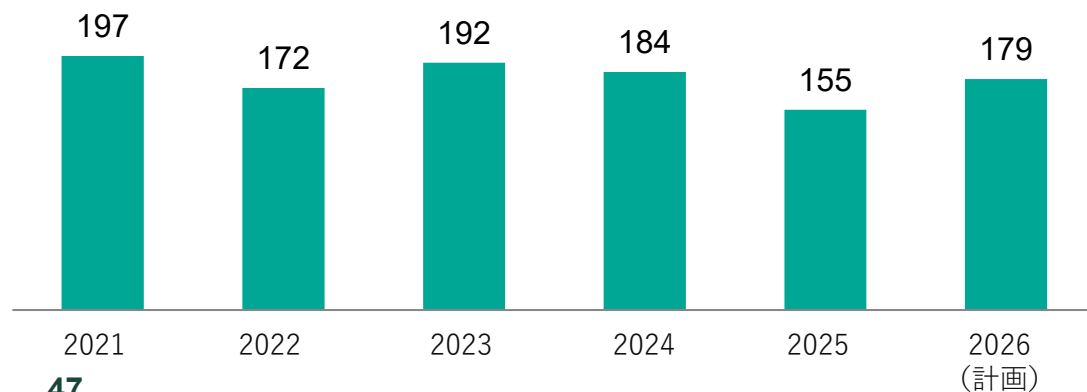
売上 営業利益 親会社株主に帰属する当期純利益



設備投資

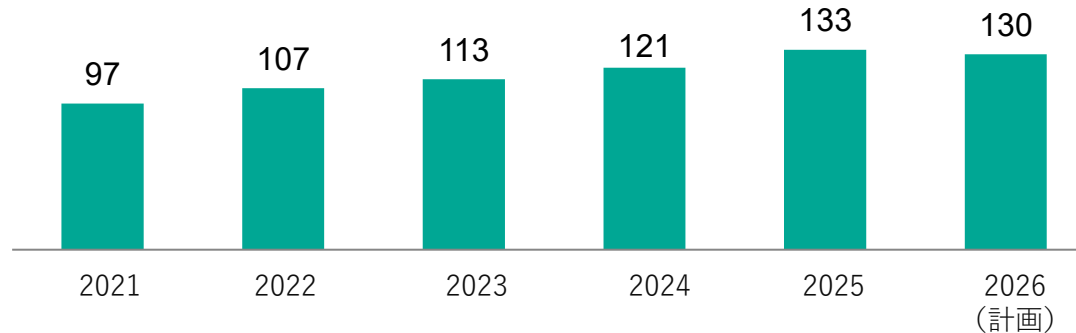
(億円)

※設備投資：実績は検収ベース、計画は発注ベース







減価償却





(億円)






色材・機能材 サブセグメント

サブセグメント		主な製品	主な用途	
CF 材 料	高機能化成品	高機能顔料	CFペースト	
		CFペースト	レジストインキ	
	表示材料	レジストインキ	ディスプレイ、センサー	
汎用化成品		顔料、顔料分散体	印刷インキ、自動車塗料	
プラスチック着色剤		マスターバッチ コンパウンド	容器、自動車、家電OA、建材	
その他		インクジェットインキ 電池用分散体	看板広告・ラベル・段ボール リチウムイオン電池	

ポリマー・塗加工 サブセグメント

サブセグメント	主な製品	主な用途	
塗工材料	接着テープ、機能性フィルム	スマートフォン	
	マーキングフィルム	看板	
接着剤	粘着剤	ラベル、ディスプレイ、自動車、工業材	
	ラミネート接着剤	フィルム包材、リチウムイオン電池、太陽電池	
	ホットメルト	製本、PETボトル胴巻きラベル	
塗料樹脂	製缶塗料	飲料缶、食缶	
	樹脂、ハードコート	印刷インキ、建築塗料、ディスプレイ	
その他	メディカル	貼付型医薬品	
	天然材料	飼料、食品	

パッケージ、印刷・情報 サブセグメント

	サブセグメント	主な製品	主な用途	
パ ッ ケ ー ジ	リキッドインキ	グラビアインキ、 フレキソインキ	フィルム包材（食品パッケージ、 日用品詰め替え） 建材 サニタリー、段ボール、紙袋	
	グラビア機器 ・製版	グラビア機器、製販		
印 刷 ・ 情 報	オフセット インキ (一般インキ)	オフセットインキ、 新聞インキ	書籍、新聞、チラシ、紙器	 
	機能性インキ	UVインキ 金属インキ スクリーンインキ	紙器、ラベル、カード、書籍 飲料缶、食缶 エレクトロニクス、ステッカー	
	印刷材料・機器	オフセット印刷材料、印刷 検査装置		

注意事項：

当社グループによる開示情報には、業績予想や将来予測に関する情報が含まれる場合があります。これらの情報は、開示時点で入手可能な情報および合理的であると当社グループが判断する一定の前提に基づくものであり、さまざまなリスク要因や不確実な要素により、実際の結果と異なる可能性があります。

当社グループによる開示情報は、ステークホルダーに当社グループへの理解を深めていただくための情報提供を目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。当社グループによる開示情報に関連して発生した金銭的あるいは非金銭的な損害に対しては、当社グループは一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

表記の金額は億円未満について四捨五入しております。